

むくのきだより 6月号



令和7年5月31日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

学びをつなげる～架け橋期の教育の充実～

園長 中村 美奈子

赤羽幼稚園の園庭では、ピーマンやズッキーニなど、子供たちが植えた夏野菜がぐんぐん大きく育っています。暑い日も増えてきたので、園庭に日よけのテントを設置したり、水筒を持って行ったり、麦茶を用意したり、熱中症予防対策をして、子供たちが元気いっぱい遊ぶようにしています。

さて、今、就学前の5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」として、その重要性が議論されています。令和5年2月、中央教育審議会初等中等教育分科会の「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」が、「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」を取りまとめました。その中で、幼児期の遊びを通して学びの特性を理解し、幼稚園・保育園・小学校が協働してカリキュラムを作成し、日々の教育活動を充実させていく重要性が示されました。幼児期の子供に必要なのは、文字や計算の訓練ではありません。子供は遊びの中で、頭も心も体も動かして、自分から自然・人・物に直接関わり総合的に学んでいきます。遊びながら考え、想像し、自分の体や創作物を使って表現したり、友達と刺激し合って興味を広げたりしていきます。

赤羽幼稚園では、赤羽小学校や近隣保育園との連携を大切にしています。毎年、飯倉保育園等の近隣保育園・赤羽幼稚園・赤羽小学校の教職員が集まり、研修会をしています。保育園・幼稚園の保育や1年生の授業を参観したり、スタートカリキュラムについて協議したりしています。スタートカリキュラムとは、小学校の入学当初に「保育園・幼稚園で遊びを通して育まれてきた学び」と「小学校の学び」が円滑に接続されるように工夫した指導を行うものです。赤羽幼稚園と赤羽小学校が協働でカリキュラムを作成しました。また、年間を通して保育園や小・中学校と連携したカリキュラムを実施しています。6月は、赤羽小学校5年生との交流や、三田中学校2年生(職場体験)との交流も予定されています。また、保護者の皆様や地域の三田地区委員会の皆様に出店のご協力をいただく6月10日の「赤羽こどもまつり」には、近隣保育園の子供たちを招き、一緒に楽しむ予定です。様々な人との出会い、多様な遊びを通して、子供たちを育てていきます。

＊三田地区委員会は、地域の子供は「地域で育てる」という考えのもと、港区と連携し、三田中学校の学区域の町会、町会内の施設、三田中学校・芝小学校・御田小学校・赤羽小学校・赤羽幼稚園の三田アカデミーとそれを支える委員で成り立っている、ポジティブボランティアの委員会です(港区青少年対策三田地区委員会広報誌より)。



ジャガイモ畑



ピーマン



ユスラウメ